

和光市総合振興計画審議会第4回会議 会議要旨

開催日：平成24年2月14日（火） 午前10時～午前11時10分

開催場所：和光市役所602会議室（市役所6階）

出席者：石川久会長（4号委員）、森田圭子副会長（1号委員）

2号委員（和光市農業委員会の委員）加藤親次郎

3号委員（市内公共的団体等の役員）荒木保敏

4号委員（知識経験を有する者）中村耕三

5号委員（公募による市民）関口泰典

（欠席2名）

次第：1 議題

(1) 答申（案）について

「和光市総合振興計画進行管理における外部評価のあり方について」

2 その他

3 閉会

1 議題

(1) 答申（案）について「和光市総合振興計画進行管理における外部評価のあり方について」

ア 事務局説明

資料1の答申（案）は、石川会長及び中村委員のご協力のもと、前回会議での議論を踏まえてまとめたものである。石川会長と中村委員のご協力に感謝申し上げます。

「目次」については、前段として「はじめに」、その後に答申の本文として「Ⅰ和光市総合振興計画進行管理における外部評価のあり方について」、続いて「Ⅱ審議会での検討経過」、「Ⅲその他」、「Ⅳ和光市総合振興計画審議会委員名簿」としている。

「はじめに」については、前段として、会長から言葉という形でまとめている。

「Ⅰ和光市総合進行計画振興計画進行管理における外部評価のあり方について」の「1外部評価の基本的な方向性について」は、次の3点を素案に加えまとめた。1点目は「総合振興計画の進捗状況等を知ることは、行政サービスの対象であり納税者でもある市民にとって大きな意味を持つものです。しかし、現実には公表内容に対する意見は少なく、市民の関心は必ずしも高いとは言えない状況である。」、2点目は「市民が施策の実施状況や地域の課題を知り、その解決に向けた取組に積極的に参加することは、市民主体の行政を推進する上で重要なことである。」、3点目は「外部評価については、計画の進捗状況が現在取り組んでいる施策の現状を市民により分かりやすく伝え、より多くの市民が参加できるような仕組みにする必要がある。また、外部評価を実施するに当たっては、より幅広い市民ニーズを取り入れる手法と評価に係るコストをできるだけ抑えた仕組みを提言する。」である。

「2外部評価の目的について」は、「外部評価とは、市民と行政の間で情報を共有し相互の理解を深め、総合振興計画の実現に向けて市民の目線からの施策の達成度を踏まえ、評価の過程で行政が気付かなかったアイデアを取り入れていく場になることだと考える。」として、「外部評価者として携わる市民が、自らに期待される役割やどのような立場から評価するのかを明確にしておくことが必要である。」とした。その上で、目的につ

いては、(1)及び(2)に「行政サービスの受益者等の立場から」という立場を示す文言を追加し、(3)の先頭に「行政の透明性を向上し」、情報共有という文言の前に「きめ細やかな」という文言を追加した。

「3 評価対象について」は、「本審議会では、ある程度全体的な視点から総合振興計画の進捗状況を見ることができる施策を評価レベルとすることが適当である。」とし、「6 5 施策すべてを評価することは、評価にかかる時間とコスト、議論の深さを考慮すると、限られた時期にすべての施策を評価の対象とすることは難しいといわざるを得ないため、十分な準備と議論の結果を一つの方向にまとめるためには時間が必要であり、限られた時間の中で、必要な議論を終えるには、評価対象についても、市民の関心が高いと思われる特定のテーマや市政にとって緊急性の高いものなど、あらかじめ選んでおくことが現実的であると考えられます。」という形でまとめた。そして、「具体的には、重点プランに該当する施策を優先して行い、それ以外の施策については、具体的な理由や根拠を示して、施策を選ぶことが考えられる。」とした。

「4 評価組織について」は、「条例に設置根拠を持つ総合振興計画審議会では、概ね20名前後の委員で構成されることが適当である。」とし、委員の構成については、「条例に基づく5区分により構成し、個別のテーマによって委員構成を組み替えて、より深い議論や検討を行うために部会を設置するなど、十分に議論できる構成を目指すべきである。」とまとめた。また、「外部評価の客観性を確保し、できる限り幅広い市民の声やニーズを反映していくためには、施策に関連して活動しているNPOや市民団体などの関係団体等へのヒアリングやゲストスピーカーとして参加する機会を設けるなどの工夫も必要である。」とした。

「5 評価の方法について」は、素案の内容を基本とし、「各委員が評価の共通の基準及び認識を持つことが重要である。」とし、また「模擬実験では、各委員の評価結果に差があり、その一つの要因として施策そのものの推進状況を評価するのか、内部評価の結果を外部の視点から評価するのか捉え方に差があったと思われる。これを明確にするため、内部評価の結果が適正であるかどうか、妥当であるかどうかについて評価することを外部評価とし、その評価内容を踏まえて、内部評価の課題の捉え方や今後の改善に関する取組等について定性的な評価を行う。」としてまとめた。

「6 評価の流れについて」は、素案の内容を基本とし、「重点プランに該当する施策以外のものについては、できるだけ早い時期に、評価機関としての外部評価（意見・考え方）を反映していくことが適当である。」としてまとめた。また、「評価結果の反映については、機械的に定めることは難しく、評価結果の内容や施策内容の性質から反映に期間を要することも想定されるため、次年度に反映が難しい場合には、施策担当部局への情報提供を含め、できるだけ早く反映できる仕組みを検討する。」とした。

「II 審議会での検討経過」、「III その他」及び「IV 和光市総合振興計画審議会委員名簿」については、資料のとおりまとめた。

イ 「目次」

石川会長

特に意見がありませんので、ここでは、答申（案）の通りの構成とします。なお、答申（案）の各項目を順に議論した後に、再度全体を通して意見をお伺いしますので、そ

れをもって結論としてまとめたいと思います。

ウ 「I_1 外部評価の基本的な方向性について」

石川会長

上から5行目の「公表内容に対する意見は少なく」については、意見以外のものもあると考えられますので、「等」を追加し、「公表内容に対する意見等は少なく」と修正するのがいいでしょう。

この部分については、「公表内容に対する意見等は少なく」と修正することとします。

エ 「I_2 外部評価の目的について」

森田副会長

4ページに記載の外部評価の目的(1)及び(2)について、「行政サービスの受益者等」とありますが、この「等」とは何でしょうか。

石川会長

行政サービスの受益者とは、行政サービスの対象であり納税者でもある市民のことですが、しかし、この納税者及び市民でない方、例えば、学識経験者なども外部評価委員にはいますので、委員構成の都合上、「等」を付けています。

他に意見がなければ、ここでは、答申（案）の通りとします。

オ 「I_3 評価対象について」

石川会長

答申（案）は評価対象を65施策全てとしていますが、それらを順番に、年数をかけて評価していくということで、まとめています。

中村委員

第四次総合振興計画基本構想について、策定に関わってこられた市民の方の労力を考えますと、まず、重点プランを中心に評価施策を選ぶという方が和光市にとって適したものになると思います。この辺りについては、全部の施策を評価したい、という意見もあると思いますので、次年度以降の外部評価の方に議論していただくのもいいかと思えます

石川会長

ここでは、答申（案）の通りとします。

カ 「I_4 評価組織について」

石川会長

答申（案）は、これまでの議論を踏まえて条例に設置根拠を持つ総合振興計画審議会がいいであろうとし、前半は2つの部会、後半は評価する施策として選択した内容により部会を設置して考えればいいのかという内容になっております。また、議論にありましたゲストスピーカーの参加についても書き込んでいます。

中村委員

これは答申ですから和光市にとってベストなもの何かということを経験者が考えて、その結果を市長に回答するものです。答申（案）全体については、市にとって何が適切

であると主張した上で、その後で根拠として議論した意見を載せていくという形にしており、答申すべき内容を踏まえ、外部評価の意義をしっかりと出していこうと考えました。しかし、前回会議の議事録を参考にしながら作成したため、文章が長くなり、論旨が明確ではないところもあるかと思いますが、そういう部分を絞るという意見を今回の会議でいただきたいと思います。

荒木委員

答申（案）については、委員皆さんの意見が全て反映されており、また、その経過や意見の根拠も記載され、大変分かりやすいと思います。決して長いとは思いません。

関口委員

荒木委員の意見に同感です。プロセスが反映されており、とてもいいと思います。

荒木委員

「論議」と「議論」の言葉の違いはありますか。

石川会長

各言葉の使用が錯綜していなければ、どちらを用いても問題ないと思います。他に意見がなければ、ここでは、答申（案）の通りとします。

キ 「I_5 評価の方法について」

中村委員

この答申を下地に次年度から外部評価を実施するので、次年度の外部評価委員が「外部評価とは何か。」ということを理解しやすい内容にしたいと思います。例えば、次年度の外部評価委員の方には、今年度、我々委員が行った施策32を外部評価の予行演習として評価していただき、「前年度の審議会が何を議論し、どこで苦労したのか。」というところをあらかじめ分かってもらった上で、外部評価をしていただければ、いいものになると思います。

荒木委員

模擬実験で各委員の評価の差がありましたので、実際に外部評価を行う際には、この答申の内容をしっかりと説明して、評価を実施していただきたいと思います。この内容は大変分かりやすいです。

石川会長

前半の重点プランについて2部会、後半はそれぞれの部会で議論し、最終的には審議会全体で結果をまとめるという段取りです。

他に意見がなければ、ここでは、答申（案）の通りとします。

ク 「I_6 評価の流れについて」

石川会長

答申（案）では、結果の反映については、できるだけ早い時期に反映し、できないものについては、その結果ができる限り早く反映できるように柔軟に行っていくとしています。

なお、6ページ「評価機関としての外部評価（意見・考え方）を反映していく」という文章の趣旨は、外部評価委員が発言した個々の意見を反映することではなく、審議会全体のまとまった意見を反映していくということです。

森田副会長

6ページ「評価機関としての外部評価（意見・考え方）を反映していく」という文章についてですが、石川会長が説明されたような「審議会としてまとまった意見や考え方」という言葉の方が分かりやすい表現になると思います。

石川会長

森田副会長のご意見の通り、ここでは、6ページ「評価機関としての外部評価（意見・考え方）を反映していく」を「評価機関としての審議会の意見・考え方を反映していく」と修正することとします。

ケ 「Ⅱ_審議会での検討経過」

石川会長

特に意見がありませんので、ここでは、この答申（案）の通りとします。

コ 「Ⅲ_その他」

石川会長

特に意見がありませんので、ここでは、答申（案）の通りとします。

サ 「Ⅳ_和光市総合振興計画審議会委員名簿」

石川会長

委員の任期について記載がありませんので、ここでは、任期を追加することとします。

シ 答申（案）全体を通して

森田副会長

「はじめに」には「市民参加を基本とした」という表現が、「1 外部評価の基本的な方向性について」には2段落目に「市民自らが、行政サービスの受益者からまちづくりの担い手となって」という表現が、そして「2 外部評価の目的について」には市民が関わるという趣旨の内容がありました。一方で「5 評価の方法」では荒木委員のご発言がありました。評価基準が明確になっておらず、また事前の委員への説明がないと評価がばらばらになってしまうということがありました。

今まで、私も評価のサイクルに関わってきましたが、市民参加条例の評価などをやりながら、分かっていないけれど評価しているということがあり、違和感がありました。このようなところから、評価していく中で、市民が育っていくということを、評価の目的に位置付けることが必要ではないかと感じています。いつも、市民が評価の場にいる市民は、評価ができる人となってしまいますが、市民がそんなに詳しいわけではないので、このままでは、模擬実験で行ったように、やってみたら評価がばらばらになってしまうと思います。市民を育っていくということをどこかで位置付けないと、市民が新たな担い手となっていくという方向性について、上手く動かせないと思います。

中村委員

森田副会長のご意見はごもっともです。その趣旨を入れるとしたら、「2 外部評価の目的」の2段落目最終文の後に市民が育ってほしいという考えの案文を入れるか、また、4ページ(1)から(3)の目的に沿った外部評価を行った経験によって、市民が育っていくと

いうことを書き加えることもできるかと思います。

森田副会長

「1 外部評価の基本的な方向性について」の2段落目に記載されている内容や「2 外部評価の目的について」に記載されている「相互の理解を深め」といった内容など、答申（案）に書いてある内容がいい内容だと思います。

関口委員

私としては、「2 外部評価の目的について」に、総合振興計画基本構想にもうたっておりますので、「協働のまちづくり」といったものを加えてほしいと思います。

石川会長

色んな入れ方が考えられると思います。

森田副会長

私が思いますのは、市民の意識も啓発されていくということです。始めは分かっているなくても、評価を通じて育っていくということではないかと思います。

中村委員

関口委員がおっしゃった「協働のまちづくり」は、行政評価に参加することが協働のまちづくりのひとつとなるという解釈で議論してきましたので、「1 外部評価の基本的な方向性について」の2段落目に、その内容を加えていくというのもいいと思います。

石川会長

森田副会長のご意見については、それ自体が外部評価の目的というわけではなく、評価を通じて市民が成長していくというものだと思います。ですから、目的として記載するよりは、前段に入れられたらいいと思います。何か答申として文章にまとめるため、キーワードなどはありませんでしょうか。

森田副会長

キーワードとして、「市民の意識が開発される」や「啓発される」といったことを考えていました。「2 外部評価の目的について」1段落目の「アイデアを取り入れていく場になる」という表現の後に、市民自身も評価プロセスに参加することで、意識を持った市民に育っていくといったことを記載することが考えられます。

関口委員

キーワードとしてですが、総合振興計画基本構想の将来都市像にあります「みんなでつくる」が、分かりやすいかもしれません。

石川会長

それでは、「1 外部評価の基本的な方向性について」や「2 外部評価の目的について」に、「みんなでつくる」、「市民が成長する」や「市民自身が関心・興味を持って、市政に当たる」といった趣旨の言葉を入れていくこととします。

全体を通して、他にご意見がなければ、先ほど決めさせていただいた結論に、この修正を加えるという内容で、最終的な結論といたします。

また、修正の具体的な表現方法等については、会長に一任いただければと思います。その後、各委員の方に確認いただき、意見を反映して最終的に答申としてまとめます。

ス 全体の感想及び意見について

中村委員

行政による市民への説明責任ばかりが強調される昨今、私は行政を批判するだけでなく、また市民もまちづくりに積極的に関わるという態度が重要と考えます。双方が「相手がやるべきだ。考えるべきだ。」とキャッチボールするというケースが、多くの自治体で見られます。しかし、和光市では総合振興計画でも「みんなでつくる」ということを掲げておりますから、市民、行政双方がお互いの良い点を認め合って、ともに物事に当たっていくのだという思いを、この答申に込めたかったというのが率直な感想です。

関口委員

第5号委員である公募委員2名の枠のうち、1名が辞退されたということで、第2回会議と第3回会議では、なるべく私自身の考えというのではなく、市民の誰々さんであったらどう言うかということを考えておりました。無理だと分かっていると言う、やはり市民はそういう立場にいるものだと思いますから、無理だと思うものも意見してきました。私はコンピュータ屋ですので、システムの部分についてはやりたいところでしたが、ここはそういう場ではありませんので、私自身を抑えて、あくまで市民の代表という立場の考えを持ちまして意見してきました。最終的にすばらしい方向性にまとまってよかったと思います。

荒木委員

この答申（案）は、市民に分かりやすい文章にまとまっていていいと思います。行政の文章は専門的な用語が多くあって、市民に分かりにくいものが多いです。私は評価される側にいましたが、今回は評価する側にいまして、どちらも分かっていますので、最初は難しいところもありました。市民の方が主役となる評価となってほしいと思います。

加藤委員

答申（案）を見ますと、内部評価と別の視点で見られるようになると思います。内部で評価するのと、別の視点で見るのでは異なると思います。私も模擬実験の時点では、内部で評価したようになってしまいましたが、客観的な方法で見れば、別の視点でできたかと思います。

森田副会長

今まで評価ということで、審議会などに何回か参加してきましたが、立ち位置が不明確なまま参加しておりました。しかし、今回の答申を通して明確になったと思います。答申（案）はそのような点が納得できる、分かりやすいものになっていると思います。

市民だから評価できるというものではなく、評価を通じて市民も力をつけていくという部分を感じていますので、それも大事な評価の役割だと思います。今回、皆さんと同じような疑問があり、そのことについて共有できたことで、目からうろこが落ちるということを感じられました。

石川会長

先日川口市の外部評価委員会に出席しまして、川口市の職員に和光市から問合せがあったことを伺いました。色んな場所で情報交換をして、よりよい外部評価をしていくというのが大事だと感じております。

また、行政が作る文章は行政用語などによって分かりにくいものが多いですが、今回の答申の文章については、分かりやすく、非常にやわらかい文章になり、市民の方が上手に受け止めていただけるものになったと思っております。各委員の方も同じ感じ方をされており、安心いたしました。

2 その他

事務局から、今後の答申までの流れについて説明を行った。

3 閉会

企画部長

今回の審議会におきましては、昨年から4回の会議にわたり、熱心なご議論をいただきましてありがとうございました。会議に先立って意見をいただくなど効率的な会議にご協力いただき、大変ありがとうございました。

総合振興計画における進行管理の外部評価のあり方ということで、報告書をほぼまとめていただき、審議を終了していただきましたが、総合振興計画の進行管理を適切に行っていくためには、外部評価の位置は重要なものと認識しております。市では、本審議会でご議論いただきました内容を受けまして、実効性のある外部評価のあり方を構築し、市民の皆さまにご参加いただきながら、施策及び事務事業を進めていきたいと思っております。また、上手くいかないものについてはどうしてできないのかを検討し、それを行政と市民で共有して、次の施策に展開していきたいと考えておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。あいさつといたします。ありがとうございました。